

1. 人流分析

KDDI Location Analyzer のビッグデータ活用

◆KDDI Location Analyzer とは

KDDI 社が提供するソリューションで、ユーザーの同意を得たスマートフォンから au 端末位置情報を定期的に収集。

性別や年代等の属性情報を含む KDDI の位置データは、他社データに比べ多くの優位性を有し、データは随時更新されるため、任意の期間において過去に遡って調査を行うことが可能。



KDDI X GSI 企業向けのエリアマーケティングGIS（地図情報システム）分野トップシェアの技研商事インターナショナル株式会社との共同開発。

また、10m メッシュで観光スポットを任意に指定することが可能な為、観光スポット別に調査を可能とする「ジオフェンス」を活用し、「江の島島内エリア」と、「片瀬海岸西浜・鵜沼海岸エリア」を設定。スポットごとに来訪者の属性把握を実施。



<江の島エリアのジオフェンスイメージ>



<片瀬海岸西浜・鵜沼海岸エリアのジオフェンスイメージ>

◆分析結果

(1) 江の島エリア

<図1-1>

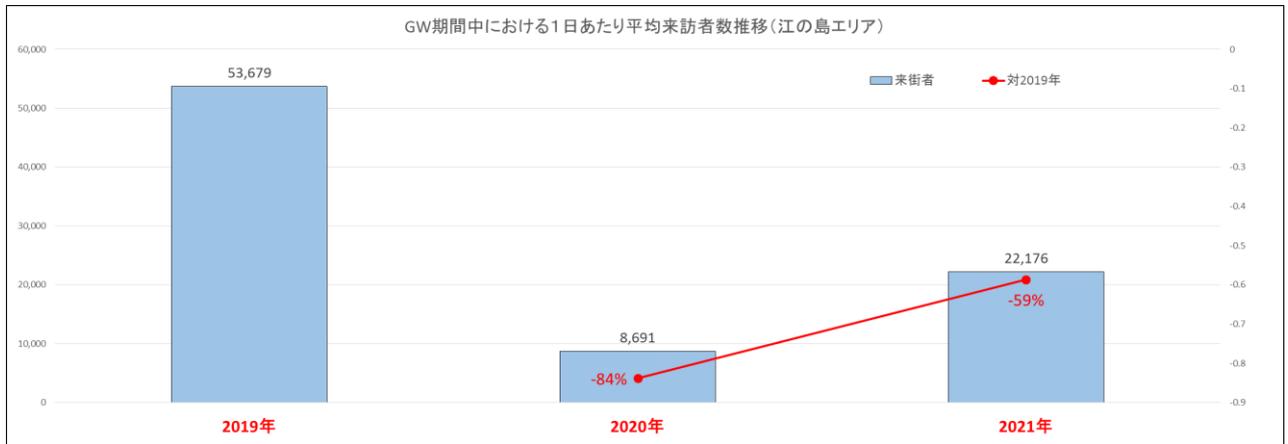
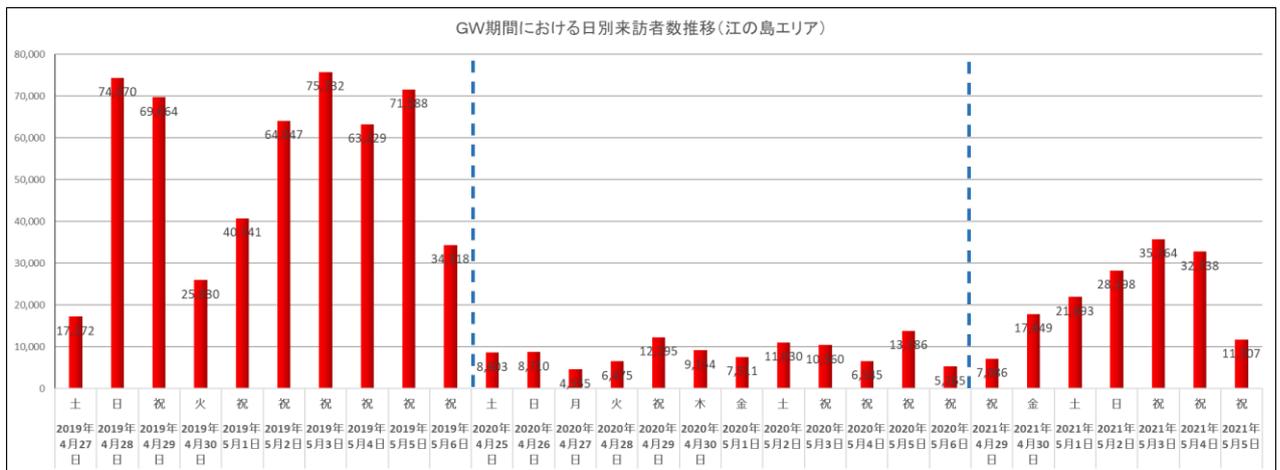


図1-1の分析結果のとおり、コロナ禍前の2019年のGW前のデータと来訪者数の比較を実施。緊急事態宣言及び特別警戒都道府県に指定された2020年は84%減であった。

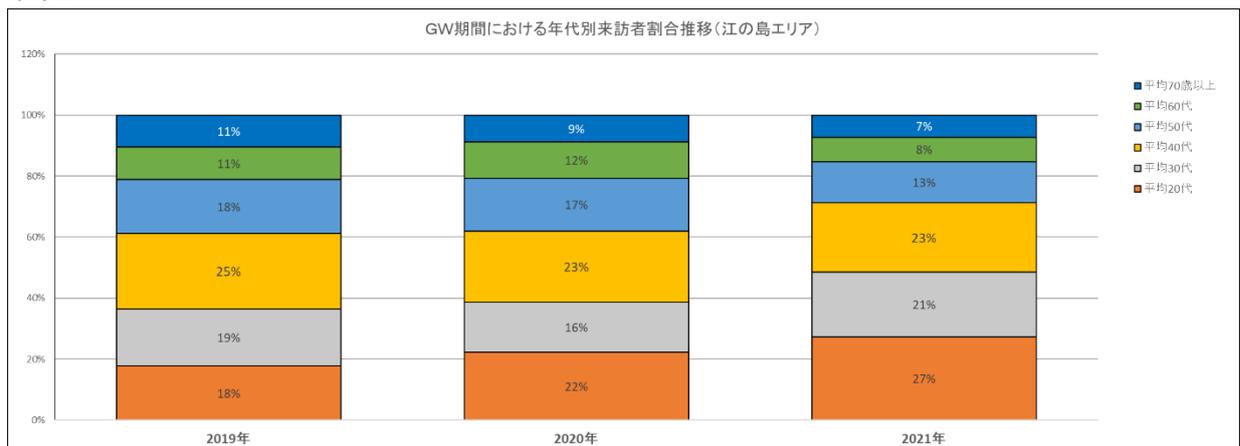
2021年においても、多くの来訪があった2019年と比べると59%と大幅に減少した。

<図1-2>



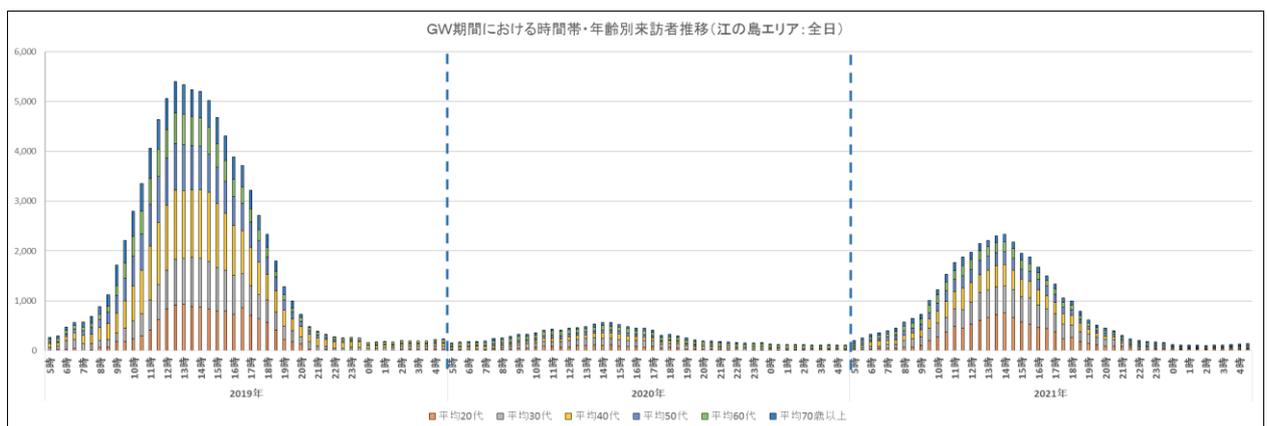
天候により来訪者数も大きく増減するが、2021年は天候が回復した5月2日～4日までが大きく増加するも、2019年には及ばない。

<図 1 - 3>



期間全体における年代別の割合をしてみると、ウィズコロナのフェーズでは、2019 年に比べて 20～30 代の年齢層は増加しているのに対し、40 代以降の中高年齢層は減少している。

<図 1 - 4>



時間別、年齢別に分析した結果、2019 年は正午でピークアウトしたが、2021 年は 14 時にピークを迎えている。

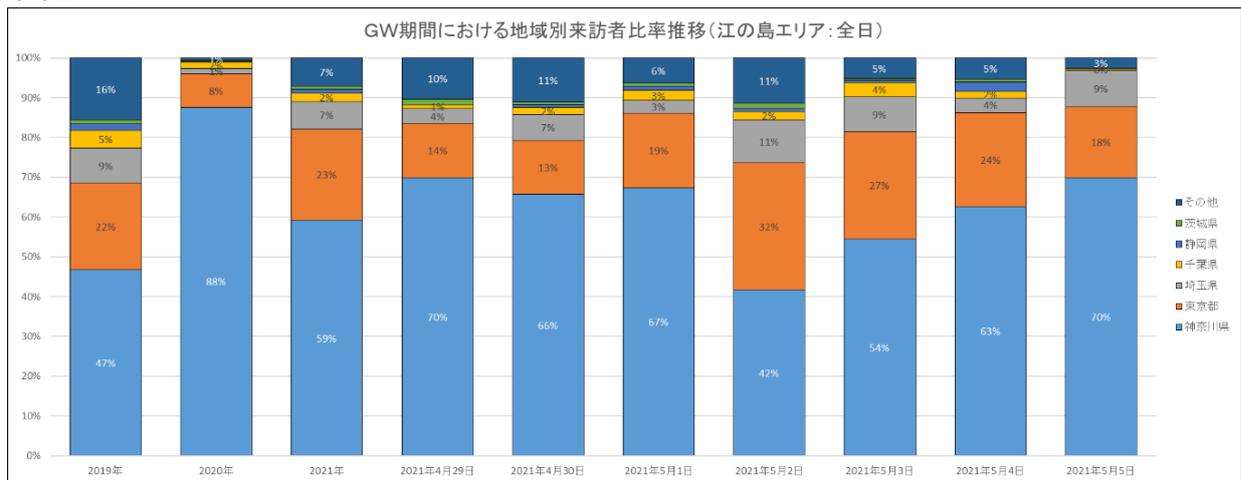
<図 1 - 5> 対 2019 年の年齢別増減率

年	平均 20 代	平均 30 代	平均 40 代	平均 50 代	平均 60 代	平均 70 歳以上
2020 年	-79%	-85%	-84%	-83%	-81%	-86%
2021 年	-24%	-43%	-54%	-63%	-65%	-69%

とりわけ 50 代以上の減少が著しいが、図 1 - 4 からは、ピークを迎える正午前までは、50 代以上も一定数の来訪があった。

このことから、中高年者も来訪意欲があり、人出が少ない午前中を狙って来訪していると推察される。

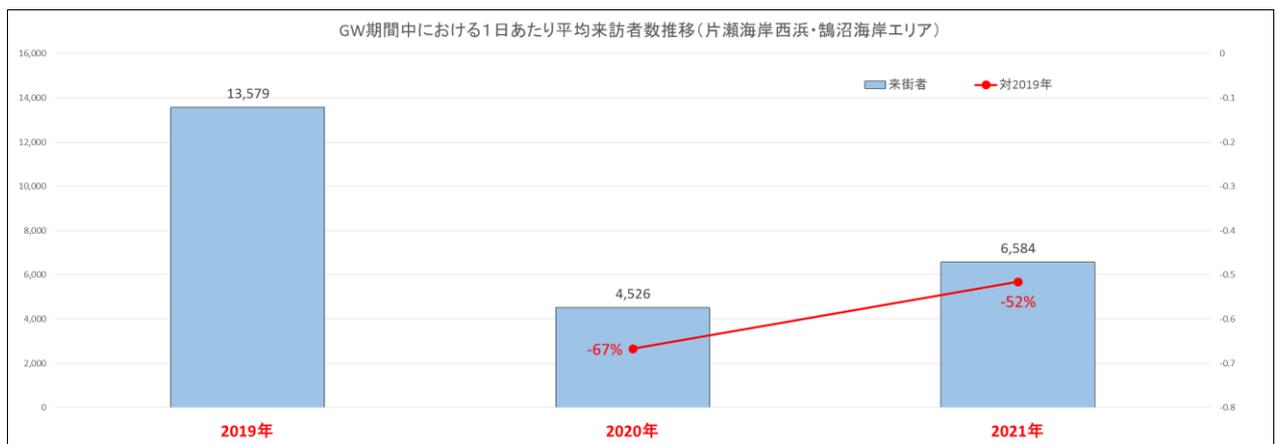
<図 1 - 6>



フロム集計では、2019年に比べウィズコロナのフェーズでは県内が増加した一方、遠方であるその他の地域からの来訪が半減以下となるなど、いわゆる「マイクロツーリズム化」が顕在化している。

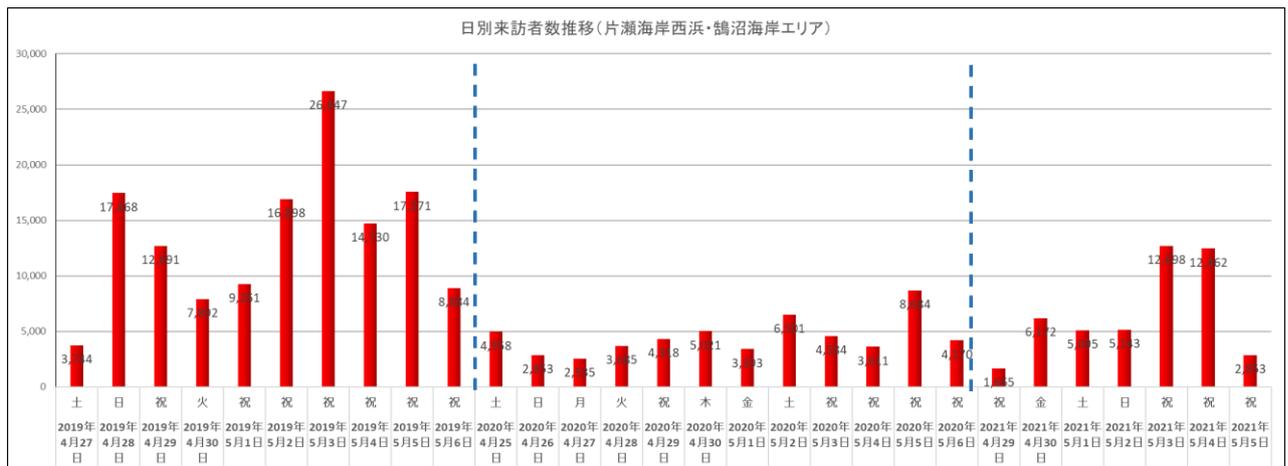
(2) 片瀬海岸西浜・鵜沼海岸エリア

<図 2 - 1>



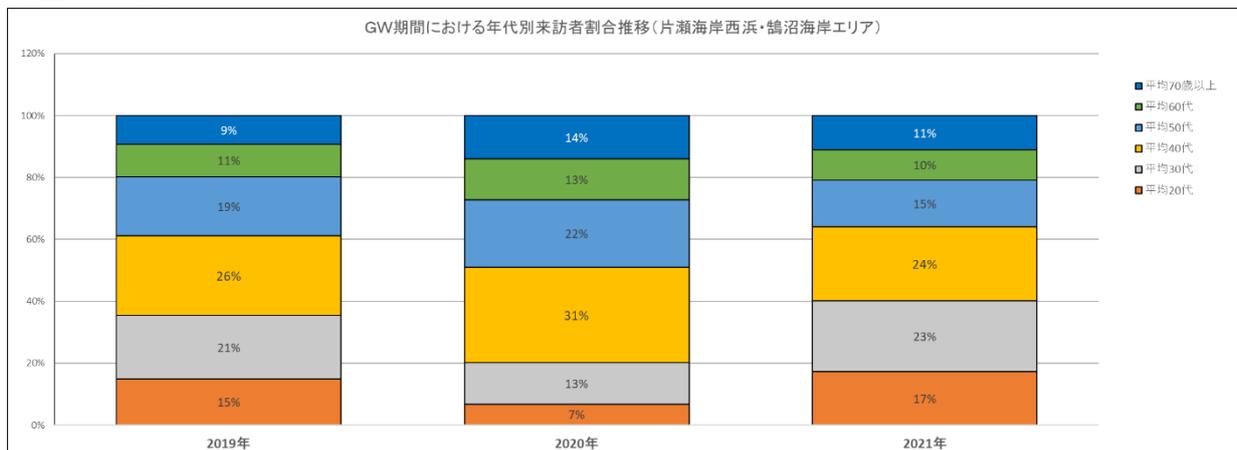
江の島エリア同様の比較を実施。緊急事態宣言及び特別警戒都道府県に指定された2020年は67%減という結果から、江の島エリアほどの影響はなく、2021年においても、52%減にとどまった。

<図 2-2>



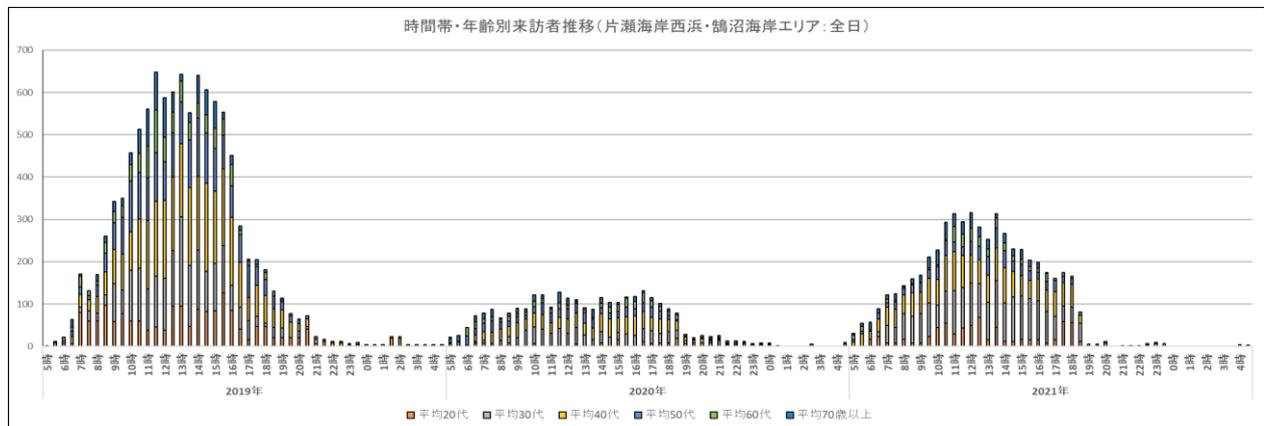
2021年は5月3日と4日が突出して増加するも、2019年には及ばない。

<図 2-3>



江の島エリアに比べ、2019年に比べて50代以上の年齢層の影響は少なく、むしろ70歳以上の割合は増加している。

<図 2-4>



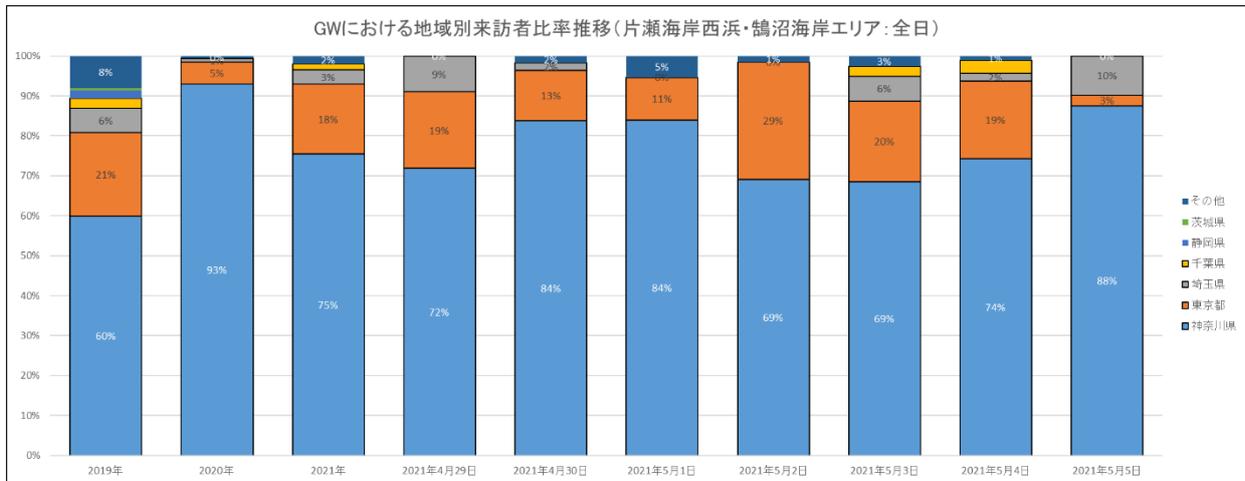
江の島エリアと違い、ピークが長い。また、日が落ちる18時半以降は一気に来訪者がいなくなる。

<図 2-5> 対 2019 年の年齢別増減率

年	平均 20 代	平均 30 代	平均 40 代	平均 50 代	平均 60 代	平均 70 歳以上
2020 年	-84%	-78%	-59%	-61%	-57%	-49%
2021 年	-39%	-41%	-51%	-58%	-52%	-37%

江の島エリアに比べ 70 歳以上の減少が極端に少ない。また、図 2-3 からは、20 代については、午前中に集中し、昼を過ぎると極端に少なくなるが、夕方に再度増加するのが特徴的である。これは、若者層が昼までサーフィンを楽しむとともに、夕方の散歩などに訪れているのではないかと推察する。

<図 2-6>



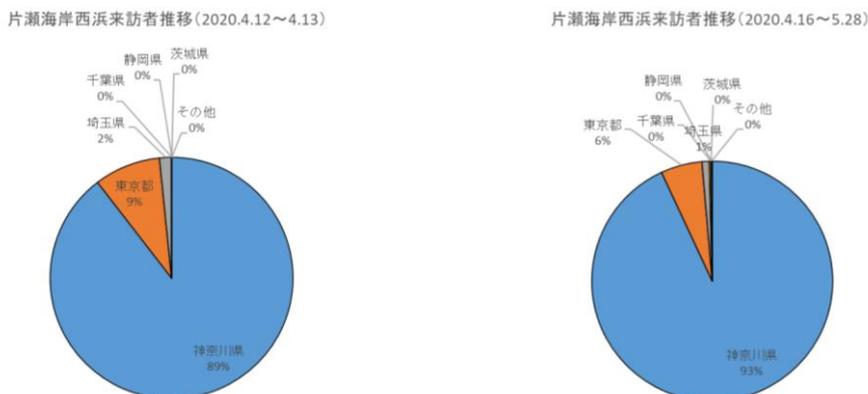
フロム集計では、江の島エリアに比べ完全に「マイクロツーリズム化」している。

2. 駐車場分析

新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020 年は緊急事態宣言のほか、特定警戒都道府県に指定され、近隣住民からも不安の声が多く寄せられたため、国道 134 号及び江の島島内の大型駐車場の利用を停止した。

藤沢市は、この影響を検証するため、KDDI Location Analyzer のビッグデータを分析した。その結果が次のとおり。

<図 3>



駐車場の利用停止を行う前週の土日の4月11日、12日の東京都からの来訪者割合は9%であったのに対し、利用停止期間である4月16日から5月28日までの間、東京都からの来訪者の割合は6%と3%の減少にとどまった。

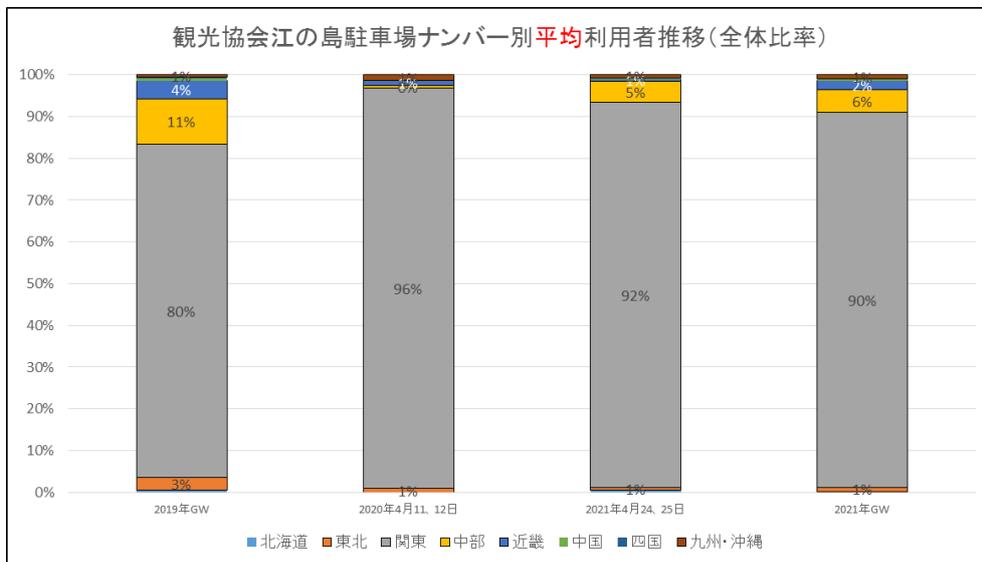
一方、大型駐車場の利用ができないことから、市街地の民間駐車場の利用者が増加したことなどから、市に寄せられる意見において、2021年は近隣住民から駐車場の利用停止に反対する声も約半数あったことなどを踏まえ、藤沢市としては、駐車場利用停止の要請は行わなかった。

このため、2021年は初めてウィズコロナのフェーズで大型駐車場の利用を行ったGWであった。

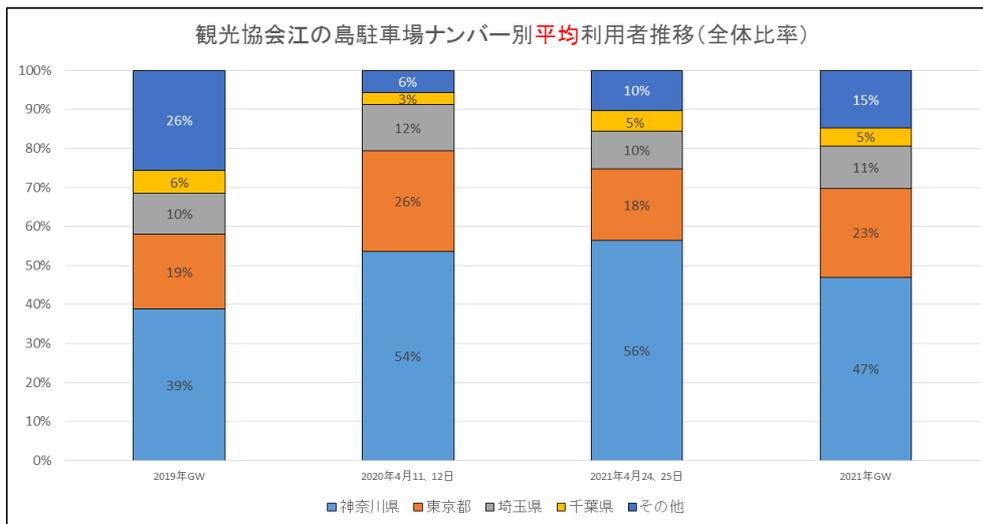
◆分析結果

(1) 江の島エリア

<図4-1>



<図4-2>

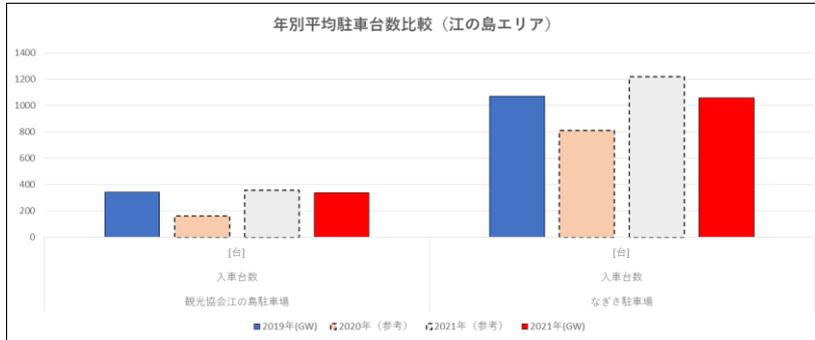


江の島島内の藤沢市観光協会の駐車場では、利用車のナンバー認証を行っている。このデータによ

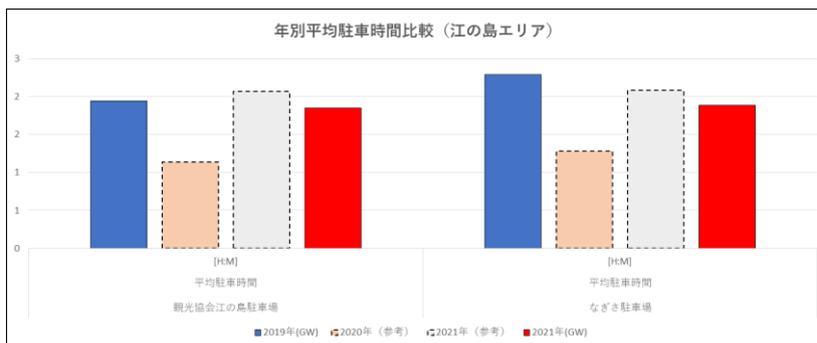
れば、2019 年は、全体の 80%が関東地方からであったのに対し、2021 年は 90%で、GW の前週と期間中では、ほぼ変化が見られなかった。

2019 年と比較すると、県内が大幅に増加し、遠方のエリアからの来訪が大幅に減少するなど、駐車場利用でも「マイクロツーリズム化」が確認できる。

<図 4-3>



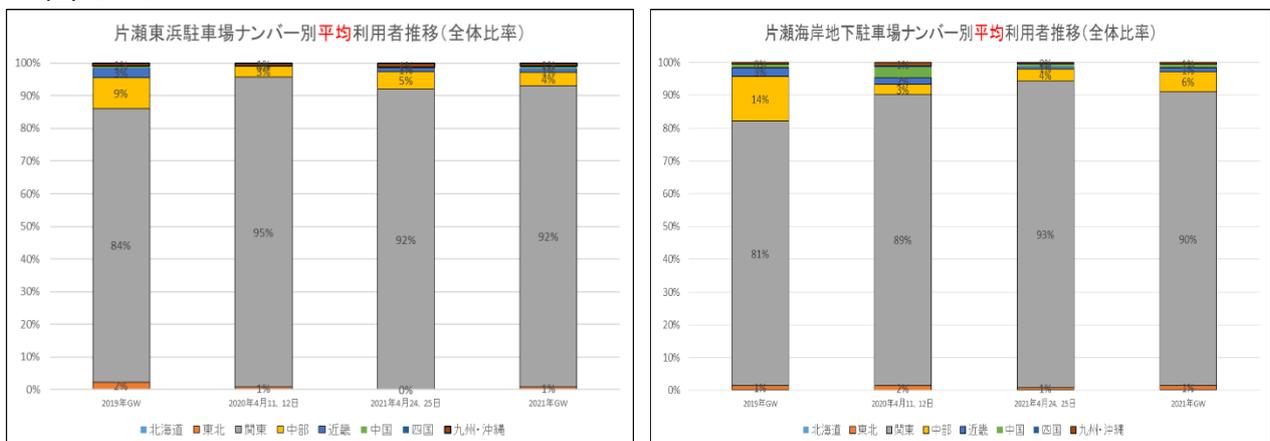
<図 4-4>



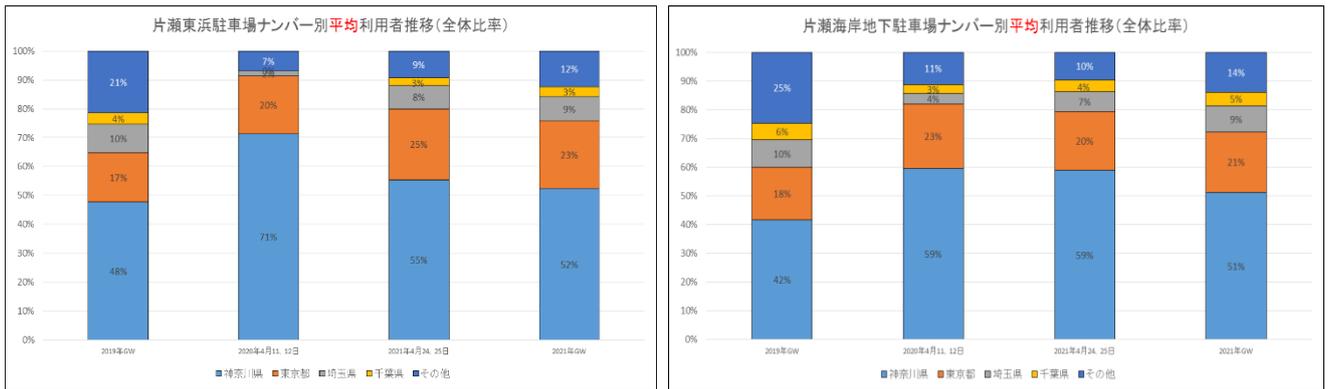
江の島島内の駐車場は、期間内の 1 日あたりの利用台数については、いずれも 2019 年と 2021 年に大きな差異は見られなかったが、平均駐車時間は短時間化している。また、2021 年は、前週の土日の 4 月 24 日、25 日の実績を下回っている。

(2) 海岸エリア

<図 4-5>



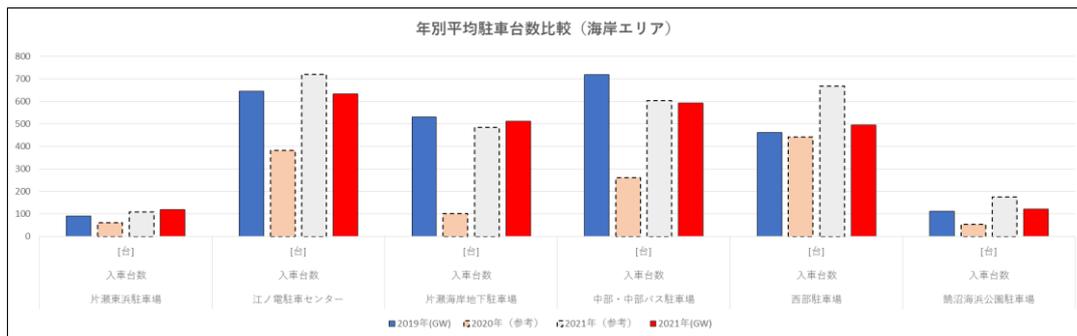
<図 4-6>



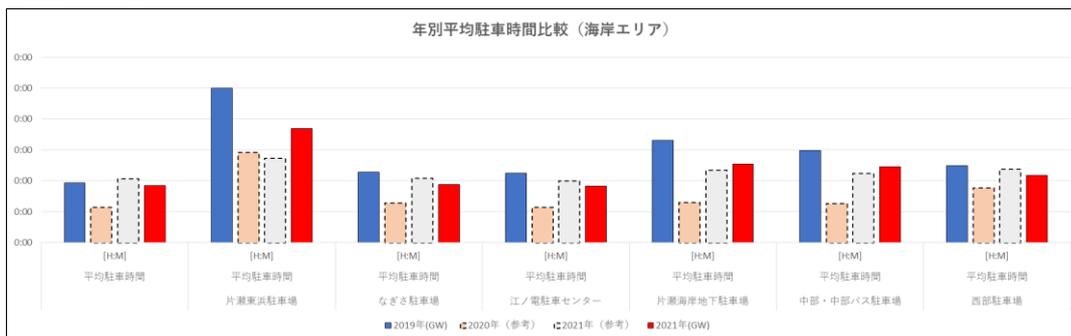
海岸エリアの片瀬東浜駐車場及び片瀬海岸地下駐車場では、利用車のナンバー認証を行っている。このデータによれば、2019年は、全体の約80%が関東地方からであったのに対し、2021年は90%と増加し、その他の地方からは大きく減少した。

2019年と比較すると、県内及び東京都がわずかに増加し、遠方のエリアからの来訪が大幅に減少するなど、ここでも「マイクロツーリズム化」が確認できる。

<図 4-7>



<図 4-8>

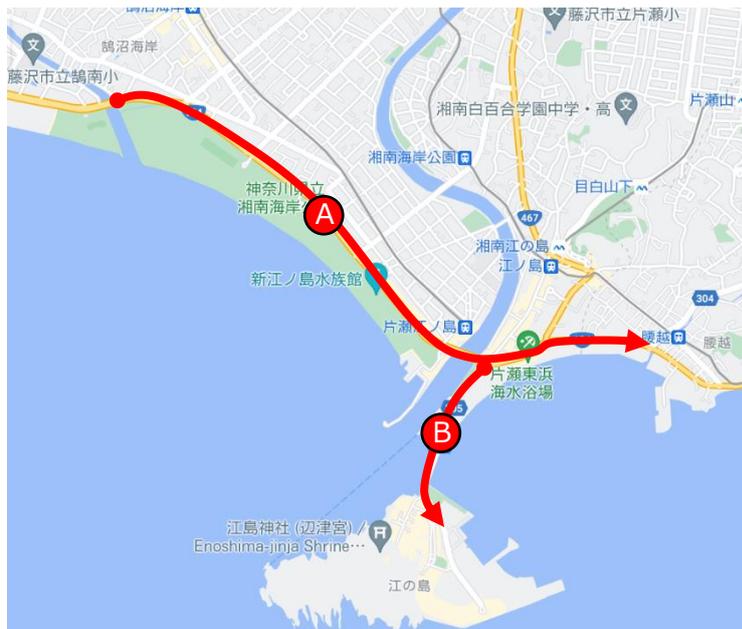


海岸エリアについては、中部・中部バス駐車場が2019年の利用実績を2021年は大きく下回った。また、総じて平均駐車時間の短時間化が江の島よりも顕著な駐車場が多い。

3. 渋滞分析

江の島周辺は大型駐車場が多くあるにもかかわらず、渋滞が発生することも多い。2021 年においても、天候が回復した 5 月 2 日～4 日において渋滞が散見した。発生したのは、引地川から腰越橋までの①区間と、江の島大橋の②区間の 2 箇所。

<図 5>



①区間については、国道 134 号上り線において、渋滞区間の終点である腰越橋付近は、片道 2 車線から 1 車線になってしまうため、右車線からの合流で渋滞が発生していた。

また、②区間については、江の島島内の湘南港臨港道路附属駐車場及びかもめ駐車場が東京 2020 オリンピック競技大会の準備のため利用停止しているため、収納台数が約 7 割減少している。このため、なぎさ駐車場への入庫待ちで左車線に車列ができていることに加え、半数以上が土地勘のない県外からの来訪であることから、3 車線化した江の島大橋の右車線を有効活用できておらず、一時的に渋滞が発生したものと分析した。

ただし、コアタイムは 11:00 頃から 14:00 頃までと、例年に比べて渋滞発生時間も限定的であったと言える。

以 上